

一期一会

第 37 号

平成30年1月22日

人間関係の中で心を育む

メディアの発達が目覚ましく、本当に便利な時代になりました。交通ナビゲーションのシステムは、安心して目的地まで案内してくれますし、料理の作り方や旅先の情報、調べたいことなど、ちょっと検索すればどれを選んでいいか迷うほどの大量の情報を手に入れることができます。



10年前にはスマートフォンという言葉はまだなかったような気がしますが、通勤電車で新聞や本を開いている人はめっきり減り、向かい側の座席に座っている人がスマホのゲームに夢中ということも珍しくありません。良しに付け悪しきに付け、私たちの生活の中になくてはならないものとしてメディアがあることは、まぎれもない事実です。

しかし、一方で、あつてはならない恐ろしい事件が毎日のように報道され、そのことに「またか」と思うてしまう昨今です。また、体力低下やキレやすさ、ちょっとしたことですぐ転び大きな怪我をしてしまうこと、人の話が聞けないことなど、子どもたちの体や心のよからぬ現状が指摘されるようになったのも、最近のことではありません。優しさや思いやり、生きる意欲、主体的に取り組む姿勢、豊かな想像力、自己抑制力、規範意識など、人類が他の動物と明確に分けられる「人間らしさ」が脳の前頭葉の働きであることは、大脳生理学の研究によりはっきりとしています。前頭葉の発達は、ほぼ8～10歳までに決まるそうです。前頭葉を発達させ、人間らしい「心」を育てるには、ケンカしたり、仲直りしたり、助け合ったり、喜びや悲しみを共にしたりといった濃い人間関係の中で、体と体、心と心が触れ合いながら育ち合うことが大切なのです。

育みながら、メディア漬けに陥らず、情報を適切に選び賢く活用する能力は、変化の激しい時代を生き抜くための必須のものであると思います。たくましい体力と豊かな心を育むために、外遊びや読書、家族のだんらんなど、メディア以外のもののよさに改めて触れる機会をぜひご家庭でも考えてみてください。

子とともに

ゆう&ゆうの購読について



すでに担任から申込票をお配りしておりますが、改めて『子とともに ゆう&ゆう』の購読についてご案内をします。『子とともに ゆう&ゆう』は、長い間、愛知の家庭教育の指針として多くの家庭で読み継がれてきています。家庭教育の重要性が叫ばれている現在、新しい教育の動きを見据えながら、親の役割や家庭のあり方、子どもとの関わり方等を幅広くとらえ、生涯学習時代の家庭と学校・地域を結ぶ架け橋の役割を果たしています。編集には校長会、PTA連絡協議会が当たり、教師や保護者も多く執筆しています。読みやすく子育ての参考になる情報誌ですので、ぜひご購入いただけたらと思います。

なお、買いたいと思うけど申込票をすでに処分してしまったという方は、遠慮なく担任まで申し出てください。